

YASUSHI HIRANO

Bass Baritone Recital

15<sup>th</sup>  
Anniversary

欧州デビュー15周年記念

# 平野 和

バス・バリトン・リサイタル

ピアノ 平野小百合

2023年8月3日(木) 19:00開演

渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール

*7:00 p.m., Thursday, August 3rd, 2023, at Shibuya Cultural Center Owada Sakura Hall*

主催：ジャパン・アーツ 協力：日本アコースティックレコーズ

## Greeting

本日は欧州デビュー15周年記念 平野 和バス・バリトン・リサイタルへ  
お越しくださり、誠にありがとうございます。

2007/08シーズンにグラーツ歌劇場で  
ウェーバー作曲 歌劇『魔弾の射手』隠者役でデビューしてから、  
あっという間に15年が過ぎました。

数多くの良き共演者やスタッフと出会えたこと、  
そしてウィーンという伝統が根付いた土地に腰を据え  
声楽家として精進できたことに、  
大きな幸せを感じています。  
支えて下さった皆様には、心より御礼申し上げます。

日芸時代の恩師・末<sup>すえ</sup>芳枝先生に多大な影響を受け、  
学生時代からドイツリートを敬愛してきました。

オペラ歌手として活動するようになって、その姿勢は全く変わりません。  
15年間を記念すべきこの夕べには、私のルーツであり心の拠り所でもある  
ドイツリートを披露したいと思い描いてきました。

前半は二つのテーマに沿って、異なる作曲家の作品を纏めてお届けします。  
「ドイツの自然や神話」と「死」という二つをテーマにした作品を集めてみました。

後半は、ロマン派の巨匠・ブラームスの歌曲を歌います。

「夏」を連想させる歌曲を集め、詩とともに夏を感じていただければ幸いです。

そして最後に、歌手として、人間としての信仰告白とも言える

「バスのための4つの厳粛な歌」でプログラムを締めくくります。

第4曲のテキストは、新約聖書<コリント人への手紙 第13章>から抜粋されており、  
奇しくも、15年前に妻・小百合との結婚式で朗読されました。

オペラ歌手として歩んだ15年もの間、一番近くで支え、  
共に切磋琢磨した人生のパートナーとこの舞台に立てることは大きな喜びです。

歌詩に目を向け、旋律に思いを馳せて、  
ドイツ・ロマン派の世界を最後までごゆっくりとお楽しみください。

2023年8月3日 平野 和



## Program

レーヴェ	詩人トム Op. 135a
シューベルト	野ばら D 257
シューマン	リーダークライス Op. 39より 月の夜
シューベルト	冬の旅 D 911より 菩提樹
シューマン	リーダークライス Op. 39より 森の対話
レーヴェ	海を渡るオーデイン Op. 118
レーヴェ	3つのバラード Op. 1より 魔王
シューマン	ロマンスとバラード集 Op. 49より 2人の擲弾兵
ベートーヴェン	6つの歌 Op. 75より 蚤の歌
シューベルト	死と乙女 D 531
	トゥーレの王様 D 367
	魔王 D 328
————— intermission —————	
ブラームス	8つのリートと歌 Op. 57より 動かぬ生ぬるい空気
	6つのリート Op. 85より 夏の夕べ
	月のあかり
	5つの歌 Op. 72より おお、涼しい森よ
	5つのリート Op. 47より 便り
ブラームス	バスのための4つの厳粛な歌 Op. 121

## Profile



### 平野 和 (バス・バリトン)

Yasushi Hirano, bass baritone

今、その活躍が最も注目されるバス・バリトンのひとり。

日本大学芸術学部音楽学科を首席で卒業。ウィーン国立音楽大学声楽科卒業、同大学大学院オペラ科を首席で卒業。末芳枝、R.ハンスマン、R.ホルに師事。

2007/08シーズンよりグラーツ歌劇場専属歌手、2008/09シーズンよりウィーン・フォルクスオーパー専属歌手としての活動を経て、ウィーンを拠点に欧州および日本各地で活躍している。フォルクスオーパーではこれまでに「フィガロの結婚」タイトルロール、「魔笛」ザラストロなど国籍14シーズンで約500公演に出演し、現在も年間を通じて多数の作品に客演している。プレゲンツ音楽祭の湖上オペラ、ステュリアルテ音楽祭などに出演するほか、コンサート歌手としてもウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニーなど主要な会場で客演している。日本での活躍も目覚ましく、兵庫県立芸術文化センター「ラ・ボエーム」「ドン・ジョヴァンニ」、びわ湖ホール「ニュルンベルクのマイスタージנגラー」は大きな話題を呼んだ。ソリストとして佐渡裕指揮新日本フィルハーモニー交響楽団「第九」、飯森範親指揮日本センチュリー交響楽団「ドイツ・レクイエム」、山形交響楽団「第九」、尾高忠明指揮大阪フィルハーモニー交響楽団「レクイエム(ヴェルディ)」、高槻城公園芸術文化劇場開館記念公演等に出演。ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラのソリストとして日本ツアーにも参加した。

今後、園田隆一郎指揮日本フィルハーモニー交響楽団、飯森範親指揮群馬交響楽団、びわ湖ホール「フィガロの結婚」タイトルロール、万人の第九、新日本フィルハーモニー交響楽団「第九」など出演を控えている。

CDはシューベルト「冬の旅」を日本アコースティックレコーズからリリース。

Twitter @ YasushiHirano



### 平野 小百合 (ピアノ)

Sayuri Hirano, piano

県立横須賀高校、武蔵野音楽大学卒業、同大学院ピアノ科修了後、伴奏者としての研鑽を積むためウィーンへ留学。私立ウィーン音楽大学(旧ウィーン市立音楽院)伴奏科にて、歌曲伴奏法・室内演奏法、その後文化庁新進芸術家在外派遣研修員としてオペラコーチングを 修士課程において学び、全科首席で修了。ピアノを中河幸、サリー・サージェントの諸氏に師事、伴奏法を故キャロリン・ヘイグ、クリスティン・オカンドに師事。第23回ベルヴェデーレ国際声楽コンクールにてベーゼンドルファー特別賞を受賞。

ベルヴェデーレ国際声楽コンクール、Competizione dell'opera公式伴奏をはじめ、アン・デア・ウィーン劇場や ウィーン室内オペラなどでコレペティチュアとして活躍。“ヴォツェック”(バルク)、“ピーター・グライムズ”(ブリテン)、“真珠とり”(ビゼー)、“エグモント”(ヨースト、世界初演)など幅広い時代・様式のアوبر

企画に携わる。

グラーツ国立音楽大学声楽学科講師、ウィーン国立音楽大学教育学科ならびに教会音楽学科を経て現在同大学声楽学科講師。ウィーン在住。

レーヴェ: 詩人トム Op. 135a

フォンターネ 詩

ヘントリー城の小川のほとりに、  
詩人のトムは寝そべっていた。  
そこへ現れたのはブロンドの乙女、  
彼女は白馬にまたがっていた。

彼女は白馬にまたがっていた、  
綺麗に編まれたたてがみの  
それぞれの編み目にはキラキラ光る  
銀色の小さな鈴がついていた。

そしてトムは帽子を取り、  
跪いて挨拶をした。  
「あなたは天界から来た女王様！  
この世に居られる方ではありません！」

ブロンドの乙女は馬を止め言った。  
「私が誰だか教えてあげましょう。  
天界から来た女王ではなく、  
私は妖精の女王です。

竖琴を取って歌いなさい  
あなたの一番得意な歌を！  
でも私にキスしたら  
7年間は私のものよ」  
「ああ喜んで、女王様。7年間あなたに  
お仕えるなど、まるで怖くはありません！」  
ふたりは接吻を交わし、  
トネリコの木の上では鳥が鳴いている。

「さあ、一緒に行きましょう、  
7年間、あなたは私のものよ。」  
2人は緑の森を駆け抜けて行き、  
詩人はこの上ない幸せを感じていた！

彼らは緑の森を駆け抜けて行った。  
鳥の歌声と太陽の光に包まれて。  
彼女が手綱を引くたびに、  
明るい鈴の音が響き渡った。

シューベルト: 野ばら D 257

ゲーテ 詩

ある少年が一輪の薔薇を見つけた、  
野原に咲く薔薇を。  
薔薇は瑞々しい朝のように美しく、  
少年は近くで見ようと駆け寄って、  
大喜びで薔薇を眺めた。  
薔薇よ、薔薇よ、赤い薔薇よ、  
野原に咲く薔薇よ。

少年は言った「お前を折ってやろう、  
野原の薔薇さんよ！」  
薔薇は言った「あなたを私の棘で刺すわ、  
永遠に私のことを忘れないように。  
耐え忍んだりするもんですか。」  
薔薇よ、薔薇よ、赤い薔薇よ、  
野原に咲く薔薇よ。

そして乱暴な少年は折ってしまった、  
野原に咲く薔薇を。  
薔薇は逆襲して刺したが、  
悲鳴もわめき声も役に立たず、  
結局耐え忍ぶしかなかった。  
薔薇よ、薔薇よ、赤い薔薇よ、  
野原に咲く薔薇よ。

シューマン: リーダークライス Op. 39より 月の夜  
アイヒェンドルフ 詩

それはまるで空が、  
大地にそっと口づけしたかのよう、  
ほのかな花に彩られた大地が、  
空を想って夢見るしかないように。

そよ風は野原を吹きすさび、  
麦の穂が穏やかに揺れ、  
森はひそひそとざわめき立つ、  
星のきらめく夜だった。

そして私の想いは  
大きく翼を広げ、  
静かな大地を飛び立っていく、  
まるで故郷へ帰っていくように。

## シューベルト：冬の旅 D 911より 菩提樹 ミュラー 詩

市門の外の泉の傍に  
一本の菩提樹が立っている  
その木陰でぼくは何度も  
甘い夢を見たものだ

ぼくはたくさんの愛の言葉を  
その幹に彫りつけた  
嬉しい時も悲しい時もいつも  
その木に足が向かってしまった

今日も真夜中に  
その木の前を通らなければならなかった  
真っ暗闇だったけれど  
思わずぼくは目を閉じた

すると枝々がざわめきたて  
まるでぼくの事を呼んでいる様に思われた：  
「さあおいで、若者よ  
お前の憩いはここにあるんだよ」と。

冷たい風が正面から  
ぼくの顔に吹き付けた  
帽子を飛ばされても  
僕は振り向くことをしなかった

今ぼくはあの場所から  
ずいぶん離れた場所に来た  
しかしあのざわめきが今もぼくに呼びかける  
「お前の憩いはここにある！」

## シューマン：リーダークライス Op. 39より 森の対話 アイヒェンドルフ 詩

夜も更けて空気は冷え込む中、  
何故にお前はひとり森を駆けて行くのだ？  
森は深く延びていて、お前はただひとり、  
美しい花嫁よ、家まで送り届けよう！

「男たちの嘘と悪巧みのせいで、  
この胸は苦しみ張り裂けてしまった。  
あちこちで角笛が呼んでいる。行きなさい、

わたしが誰なのかあなたは知らない。」

馬と女は綺麗に飾られて、  
若々しい体は何とも美しい。  
そうか、わかったぞ！ ああ神よ護りたまえ！  
お前は魔女、ローレライ！

「よくぞ分かったわね。この高い頂から私の城は、ライン  
川を静かに見下ろしているのよ。  
夜も更け空気が冷え込むこの森から、  
あなたはもう逃げ出す事が出来ないのよ。」

## レーヴェ：海を渡るオーデイン Op. 118 シュライバー 詩

ヘルゴラントの鍛冶屋、オールフ親方は  
真夜中に作業場を離れようとする。  
海辺で風がびゅうびゅう唸りをあげ、  
力任せに戸を叩く音が聞こえてきた。

「出てこい！そして我が馬に蹄鉄を打て、  
朝が近づいているのに我が道は長いのだ」  
オールフ親方が扉の鍵を外してみると、  
そこには堂々とした騎士が立っていた。

真っ黒な鎧、  
兜に盾、  
腰には大きな剣が刺さっていた。  
彼の黒毛の馬は荒々しくたてがみを振り、  
落ち着きなく大地を踏み鳴らしている。

「こんな真夜中にどこから？そんなに急いで何処へ  
向かう？」  
「ノルダーナイに昨日は居た。  
我が馬は速いが、夜空が明るみかけている、  
日の出の前にはノルウェーに居なければならないのだ！」  
「翼でもお持ちならそれも信じられそうだが！」  
「我が馬は風と共に駆けてゆくのだ。  
既に夜空が明るんで星が薄れている、  
故に急いで蹄鉄を打つのだ！」

オールフ親方は鉄を手にしたが、あまりにも小さ過ぎた。  
しかしみるみる大きくなって行く。  
馬の足にピタリと合う様子を見て、

親方は不安と恐怖に襲われた。

騎士は馬に跨り、彼の剣が音を立てる。

「オールフ親方よ、よく休め！  
オーデインの馬に見事に蹄鉄を打った。  
我は血みどろの戦場へと急ごう。」  
黒毛の馬は大地と海とを飛んでゆき、  
オーデインの頭のまわりには光が輝く。  
12羽のワシが後を追って飛んでゆくが、  
決してオーデイン達には追いつけない。

## レーヴェ：3つのバラード Op. 1より 魔王 ゲーテ 詩

夜の風を切り裂いて馬で駆けて行くのは誰か？  
それは父親と子供。  
父は子を腕に抱え込み、  
しっかりと暖かく抱えている。

「息子よ、何を恐れてそんなに顔を隠すのだ？」  
「お父さんには魔王がいるのが見えないの？  
冠をかぶって裾を垂らした姿が？」  
「息子よ、あれは霧が漂っているのだよ。」

「かわいい少年よ、おいで、一緒に行こう！  
一緒に楽しく遊ぼうよ。  
岸には色とりどりの花が沢山咲いているし、  
お母さんは金色に煌めく服を沢山持ってるぞ」

「お父さん、お父さん、聞こえないの、  
魔王がそっと追って来るのが？」

「落ち着いて、落ち着くのだ、息子よ。  
あれは枯葉が風で揺れているだけだよ。」

「かわいい少年よ、一緒に来ないかい？  
娘たちと一緒に遊ばせてあげよう。  
娘たちは夜中まで踊りまわり、君を抱き抱え、踊って、  
歌って、眠らせてあげよう。」

「お父さん、お父さん、  
あそこに見えないの、  
薄暗いところにいる魔王の娘たちが？」

「息子よ、息子よ、しっかり見えるよ、  
あれは灰色の古い柳の木さ。」

「私はお前が好きだ、  
可愛いその姿に魅せられてる。  
お前が来ようとしないうなら、  
力づくで連れて行くぞ。」  
「お父さん、お父さん、  
魔王が僕をつかまえる！  
魔王が僕に手を出した！」

父親は恐ろしくなり、馬を急いで走らせる。  
喘ぐ子供を腕に抱え、  
やっとの思いで屋敷に辿り着くと、  
腕の中で子供は死んでいた。

## シューマン：ロマンスとバラード集 Op. 49より 2人の擲弾兵 ハイネ 詩

故郷フランスへと向かう2人の擲弾兵は、  
ロシアで囚われの身にあった。  
解放されドイツの宿に着いた時、  
彼らはがっくりとうなだれてしまった。

そこで彼らは悲しい知らせを聞いた。  
フランスが敗北し、  
勇敢な軍隊は打ち負かされて、  
そして皇帝が、皇帝が捕えられたと。

2人の兵士は共に泣いた、  
この悲しい知らせの故に。  
ひとりが言った。  
「ああ何てことだ。俺の古傷がヒリヒリ痛む！」

もうひとりが言った。  
「もう終わりだ。俺もお前と死んでしまいたい。  
だが故郷には妻と子供がいて、  
俺なしには生きていけないんだ。」  
「妻がなんだ。  
子供がなんだ。  
俺はもっとはるかに良い願望を抱いている。  
飢えてしまうなら、物乞いになれば良い。  
我が皇帝が、我が皇帝が捕えられたんだぞ！」

兄弟よ、一つ頼みを聞いてくれるか。  
もしも俺が死んでしまったら、  
遺体をフランスに運んで、  
故郷の地に埋めてくれ。

赤いリボンのついた勲章を  
俺の胸の上に置いて、  
手には銃を握らせて、  
腰には剣を下げてくれ。

そして俺は横たわり静かに耳を傾けよう、  
墓のなかで、歩哨のように。  
いつか大砲の轟音と  
いなく馬の歩みが聞こえてくるまで。

その時、我が皇帝は  
俺の墓の上を馬で駆け、  
多くの剣が音を立てて輝くだろう。

その時、俺は武装して  
墓から立ち上がる。  
皇帝を、皇帝を守るため！」

### ベートーヴェン：6つの歌 Op. 75より 蚤の歌 ゲーテ 詩

昔々あるところにひとりの王様がいて、  
大きなノミを飼っていた。  
王はそのノミを自分の息子のように、  
大層可愛がっていた。  
王は支える仕立て屋を呼び、  
仕立て屋がやって来ると、  
「彼のために貴族の洋服と、  
ズボンを仕立て上げろ！」と命じた。

ビロードと絹の服を、  
ノミは着こなした。  
上着にリボンを飾り、  
その上十字架もぶら下げた。  
ノミは直ぐに国の大臣となり、  
大きな力が授けられた。  
そしてノミの兄弟達も、  
宮廷で高い位が与えられた。

宮廷の紳士淑女たちは、  
ノミに大いに苦しめられた。  
お妃様も侍女たちも、  
ノミに刺され、かじられたが、  
潰す事は許されず、  
掻きむしることも出来なかった。  
しかし俺達はノミに刺されりゃ、  
直ぐに潰して殺してしまう！

### シューベルト：死と乙女 D 531 クラウディウス 詩

向こうへ！向こうへ行け！  
乱暴な死神よ！  
私はまだ若い、行って、おねがい！  
そして私に触らないで。

手を出してごらん、美しくか弱い娘よ！  
私は友達、罰を与える為に来たのではない。  
心穏やかに！乱暴はしないよ、  
私の腕の中で安らかに眠らせてあげよう！

### シューベルト：トゥーレの王様 D 367 ゲーテ 詩

むかしトゥーレに王様がいて、  
墓に入るまで忠実を尽くされました。  
王妃は亡くなる時王様に、  
金の盃を形見にあげました。

王様はその盃をこよなく愛され、  
宴会のたびにその盃で飲み干しました。  
その盃を飲み干す度に、  
目には涙が溢れるのでした。

王様に死期が近づいてくると、  
彼は国の都市を数え上げ、  
全てをお世継たちに与えられましたが、  
その盃だけは与えませんでした。

王様は宴会の席に座り、  
騎士たちは王様を取り囲んだ。  
あの海辺の城の高いところに位置する、

先代の王たちの広間で。

年老いた酒豪の王様はそこに立ち、  
生涯最後の一滴を飲み干すと、  
その神聖な盃を、  
真下の海の中に投げました。

王様は盃が落下して水の中に入り、  
底に沈んで行くのを見つめていました。  
王様の臉は閉じられ、  
もはや一滴も飲むことはありませんでした。

### シューベルト：魔王 D 328 ゲーテ 詩

夜の風を切り裂いて馬で駆けて行くのは誰か？  
それは父親と子供。  
父は子を腕に抱え込み、  
しっかりと暖かく抱えている。

「息子よ、何を恐れてそんなに顔を隠すのだ？」  
「お父さんには魔王がいるのが見えないの？  
冠をかぶって裾を垂らした姿が？」  
「息子よ、あれは霧が漂っているのだよ。」

「かわいい少年よ、おいで、一緒に行こう！  
一緒に楽しく遊ぼうよ。  
岸には色とりどりの花が沢山咲いているし、  
お母さんは金色に煌めく服を沢山持ってるぞ」

「お父さん、お父さん、聞こえないの、  
魔王がそっと追って来るのが？」

「落ち着いて、落ち着くのだ、息子よ。  
あれは枯葉が風で揺れているだけだよ。」

「かわいい少年よ、一緒に来ないかい？  
娘たちと一緒に遊ばせてあげよう。  
娘たちは夜中まで踊りまわり、君を抱き抱え、踊って、  
歌って、眠らせてあげよう。」

「お父さん、お父さん、  
あそこに見えないの、  
薄暗いところにいる魔王の娘たちが？」

「息子よ、息子よ、しっかり見えるよ、  
あれは灰色の古い柳の木さ。」

「私はお前が好きだ、  
可愛いその姿に魅せられてる。  
お前が来ようとしないうら、  
力づくで連れて行くぞ。」  
「お父さん、お父さん、  
魔王が僕をつかまえる！  
魔王が僕に手を出した！」

父親は恐ろしくなり、馬を急いで走らせる。  
喘ぐ子供を腕に抱え、  
やっとの思いで屋敷に辿り着くと、  
腕の中で子供は死んでいた。

### ブラームス：8つのリートと歌 Op. 57より 動かぬ生ぬるい空気 ダウマー 詩

動かぬ生ぬるい空気、  
自然の深い静けさ、  
静かな夜の庭では、  
噴水の音だけが聞こえている。

しかし私の心の中では、  
熱い情熱が煮えたぎり、  
そして血管の中では命が溢れ、  
もう一つの命を欲している。  
あなたの胸にも、憧れの切なる思いが  
湧き上がっていないだろうか？  
私の心の叫びが、あなたの心の奥深くを  
震わせていないだろうか？

ひそやかに軽い足取りで、  
ためらわずに漂えばよい！  
おいで、さあおいで、そして一緒に  
天上の幸せを分かち合おう！

## ブラームス：6つのリート Op. 85より 夏の夕べ ハイネ 詩

たそがれながら夏の夕べが、  
森や緑の草原をおおっている。  
金色の月は青い空の中で、  
もやに包まれ活気付いて輝いている。

小川のほとりでコオロギが鳴き、  
水中では何かが動いている。  
旅人は水がはねる音と、  
静けさの中に何者かの息遣いを聞く。

向こうの小川のほとりでひとり、  
美しい妖精が水浴びをしている。  
腕と首元は、白く愛らしく、  
月光の中で輝いている。

## ブラームス：6つのリート Op. 85より 月のあかり ハイネ 詩

夜が見知らぬ道々に横たわる、  
病んだ心と疲れ果てた体。

ああ、そこに静かな祝福のように  
降り注ぐのは、優しい月の光、

その光で夜の恐怖を追い払ってくれる。  
私の苦痛は消え去って、  
眼には涙が溢れてくる。

## ブラームス：5つの歌 Op. 72より おお、涼しい森よ ブレンターノ 詩

おお、涼しい森よ  
どこでざわめいているのか、  
私の恋人が歩む森よ？  
おお、こだまよ、  
お前はどこで耳を傾けているのか、  
私の歌をよく分かってくれたこだまよ？

心の奥深くに、  
そこで森がざわめいている、

私の恋人が歩む森、  
こだまは苦悩のうちに眠ってしまい、  
私の歌も消え去ってしまった。

## ブラームス：5つのリート Op. 47より 便り ハフィス 詩(ダウマーの独訳)

そよ風よ吹け、愛らしく、  
愛する人の頬をそっと撫でて、  
彼女の巻き髪に優しく戯れて、  
あまり急いで吹き抜けたりせずに！

もしかしたら彼女はたずねるかもしれない、  
哀れな私はどうしているかと、  
答えておくれ、  
「終わる事のない苦しみは続き、状態は酷いものでした。」

しかし今は生きる希望を持ち、  
再び元気を取り戻すでしょう。  
なぜならやさしいあなたが、思いを寄せて下さるから  
です。」

## ブラームス：バスのための4つの厳粛な歌 Op. 121 1 (旧約聖書・伝道者の書・第3章)

獣に当てはまる事は人間にも当てはまる、  
獣に死が訪れるように、人間にも訪れる。  
すべての生き物は同じ息吹を持ち、  
人間が獣に優るものなど、  
何もない。  
なぜなら全ては空虚であるから。

全てのものはひとつの場所に向かう。  
全ては塵から生まれ、  
そして再び塵に帰る。  
誰が知るか、人間の魂が  
天井へと昇り、  
そして獣の生命が、  
地の底に降るなどと。

それ故に私は見た、  
人は己に与えられた仕事に励む、  
それ以上に幸せな事はないと。

これが人間に与えられた分である。

誰が人間を死後の世界に連れてゆき、  
その後の姿を見せることが出来るだろうか？

## 2 (旧約聖書・伝道者の書・第4章)

私は振り返りそして見た、  
日の下で不正に苦しんでいる人たちを。

そして見よ、虐げられている者の涙を、  
彼らは不正に苦しみ、  
慰める者もない。  
そして彼らを虐げる者が、  
あまりにも巨大な権力を持っている。  
彼らには慰める者がいない。

それ故に私は既に命を落としている者、  
死者を讃える、  
命あるものよりも、  
いまだ生きながらえている者よりも。  
そして更に祝福されるべきは、  
まだ生を受けていない者である。  
日の下で行われている、  
不正の数々を目にしていな者たちである。

## 3 (旧約聖書外典・シラ書・第41章)

おお死よ、お前のことを思うのは、  
何と苦しいことか。  
その人が平穏で裕福に暮らし、  
悩み事なく生きる者にとっては。  
全ての物事が上手く行き、  
食べることに一切困らない者にとっては。  
おお死よ、お前は何と苦痛に満ちたことか。

おお死よ、お前はか弱く貧しい者にとって  
何と心地よいのか、  
沢山の悩みを抱えて、  
より良き未来に期待することも出来ず、  
ただ死を待ち望んでいる者にとっては。  
おお死よ、お前は何と心地よいのか！

## 4 (新約聖書・コリント人への手紙第一・第13章)

たとえ私が人間の、  
また天使の言葉で語ろうとも、  
そこに愛がなければ、  
それは騒がしいドラ、  
あるいはやかましいシンバルも同然である。  
たとえ私に預言する賜物があり、  
あらゆる神秘と  
あらゆる知識に通じていようと、  
そしてまた私に、  
山をも動かす程の信仰心があっても、  
そこに愛がなければ、  
無に等しい。

たとえ私が貧しい人々のために、  
全財産を使い尽くしても、  
また私の肉体を燃え尽くし捧げる程の信仰があっても、  
そこに愛がなければ、  
私にとって何の益にもならない。

私達は今、鏡に写っている  
おぼろげな姿を見ているが、  
やがて、面と向かって見る事になる。  
私達は今、一部しか知る事がなくとも、  
時を経れば、ありのままの真実を、  
ありのままに知ることになる。

それ故、永遠に残るものは  
信仰、希望、愛、この3つである。  
だがその中で最も偉大なものは、  
愛である。

対訳：平野 和